



「親と子の教育講演会」

『SNSのトラブルや犯罪から子どもたちを守る!』

12月19日、東海高校PTAの声掛けにより、「子どもたちを守る」という合言葉の下、村内に立地する中学校・高校の垣根を超えた研修会が開催されました。当日は、東海高校の全校生徒に加え、東海中学校・東海南中学校の先生や保護者が多数参加し、近年メディア等で耳にする「闇バイト」、「SNSでの出会い」等、東海村の中学生・高校生にとって決して他人事ではない“子どもの情報モラル”について学びました。

【問い合わせ】地域戦略課わかものまち推進担当(☎282-1711 内線1339)

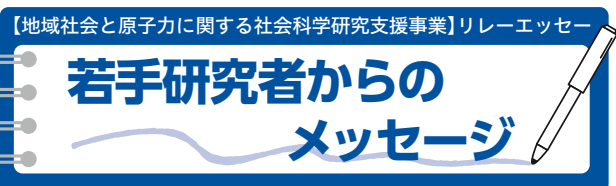


- SNSでは年齢・性別・性格を偽れる!
→ 犯罪者は善人のふりをして近づいてくる
- 闇バイトは“切り捨てられる駒”である!
→ リスクが高く、罪状は重い
- 他人の意思に流されない自分を作ろう!
- 思考力ゼロで行動せず、常に考えよう!

SNSは学生にとって生活の一部になっていると思います。そういった中、今回の講演会では“身近に潜む危険”や、“自分の常識を疑ってみる”などの気付きがたくさんありました。今後、就職や進学で世界が広がりますが、今回学んだ気付きを日頃から意識し、正しい判断ができる力を身に付けたいと思います。(東海高校3年生)



村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。



東海第二原発再稼働をめぐる

さまざまな議論の解明

常磐大学教授 砂金 祐年

私はここ15年ほど、国立結核療養所村松晴嵐荘(現国立病院機構茨城東病院)の開荘後の東海村の近現代について研究を続けてきました。その過程で、東海第二原発が東海村のみならず周辺自治体でも重要な関心事となっていることに注目し、令和2年度に「東海第二発電所の再稼働が関東地方の市町村議会での議論されているのか」というテーマで研究助成を受けました。



調査では、茨城、栃木、埼玉、千葉の4県の186市

町村議会の会議録から、東海第二原発再稼働に関連する意見書、決議、請願、陳情の議決における賛否の討論を抽出し、テキストマイニングと呼ばれる手法で分析を行いました。その結果、以下の3点が明らかになりました。①再稼働に賛成と反対の立場は「長期的には再生可能エネルギーの普及を推進すべき」という点では一致していることが分かりました。②再稼働への賛成・反対は二者択一ではなく、賛成論には地域経済の振興や地球温暖化への対応などがあり、反対論にも災害リスクの懸念や使用済み核燃料の処理問題などがあるといったように、それぞれに多様な立場の主張があることが明らかになりました。③住民に対するWEBアンケート結果と比較したところ、東海第二原発に関する住民世論と市町村議会における意見書議決状況が一致する傾向が見られ、地方議会が住民世論を反映している様相が示唆されました。

最後に、研究助成をいただいた東海村の皆さんに深く感謝申し上げます。この研究が東海村の未来に寄与することを心より願っております。



報告書はこちら▶

【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)